



## 特集 リハビリテーションにおける口腔ケア その2

今回は、発達に障がいのある子どもの口腔ケアでよくみられる場面について、対応のポイントをお伝えします。



**事例1** 2歳のA君は歯磨きをととても嫌がります。手足をバタバタさせて、大きな声で泣いてしまいます。

10まで頑張ろう！ 1、2、3、あともう少し。

**「過敏」があるかもしれません。**  
過敏の有無や部位の確認をし、過敏の除去(脱感作といいます)に向けましょう。

### 過敏の部位の確認

手 腕 肩 首 顔面 口腔周囲 口腔内の順で、手のひら全体(口腔内は人差し指)を過敏を確認する部位にしっかりと圧迫するように当てて評価します。

### 脱感作

過敏のある部位の中で体の中心より一番遠い部位から、手のひら全体をしっかりと圧迫するように当てます。子どもが嫌がり逃げようとしても絶対に手を離さず、子どもの抵抗が弱まるまでしっかり触れ続けます。

1日1分からで良いので、毎日同じ方法で続けます。数ヶ月ですぐいふんと過敏が取れてきます。好きな音楽や心地よい環境の中でできるだけ落ち着いた雰囲気で行えるようにします。

**脱感作 歯磨き、の順番で行うと、いきなり歯磨きをするより不快感が減少し、歯磨き拒否が弱まるかもしれません。日々のケアの中で、触れる機会を増やすことも大切です。**

「過敏」ってなあに？

~~~~~

触覚過敏のことで、四肢や体幹、顔、口周囲や口腔内などに起こります。中枢神経系の未成熟、経管栄養等で口腔周囲の感覚刺激の不足がある等により、生理的な過敏が残存してしまっている状態です。触れられると極端に嫌がります。

**事例2** 脳性まひで15歳のB君は歯ブラシを噛むと離さなくなります。ある時、噛んだ歯ブラシが折れて口腔内に残ってしまいました。



**素早く開口させ破損物を除去します。また歯や口腔粘膜の損傷の有無をチェックします。原始反射のひとつである「咬反射」が残存し、意思に関係なく不意な噛みしめが起こる状態です。**

### 「ガム・ラビング」

~~~~~

歯肉マッサージのことです。口腔内の感覚を高める効果があるので、歯ブラシやスプーンをかんでしまう子どもにも有効といわれています。

歯磨きは、できるだけ覚醒している時間に設定します。ローテーション磨きを取り入れ集中的に磨く部位をその都度決めます。姿勢を整え、やさしく丁寧に磨きます。介助者の歯磨き技術を見直しましょう。強すぎたり、歯ブラシを大きく動かしていませんか？

数を数えたり歌を歌うなど、気を紛らわしたり頑張れる工夫をし、歯磨き後はたくさん褒めて、嫌な体験にならないようにします。

強く噛んで磨けないときは、はじめから開口保持具を奥歯に噛ませ行う方法もあります。

今回の特集内容の詳細についてはリンクNsやCNへ質問、又は以下の文献を参考にしてください。  
田角勝・向井美恵著：小児の摂食・嚥下リハビリテーション,医歯薬出版株式会社,2006,p148~168.

# CNS・CNからの情報



## 事例研究をやってみよう！

今回は具体例で考えてみましょう？

### 研究課題



3歳のA君は、生まれてすぐに大きな手術をして、気管切開となり、経管栄養で生活してきました。

そろそろお口から食べる練習をしたいのですが、食事を拒否してしまい、食べられません。どうしたらお口から食べられるようになるでしょうか？

### 研究目的

経口摂取が困難な事例への摂食の取り組みの効果を検証する

### データ収集

バイタルサイン、看護記録、観察したデータ、アセスメントツールなどを駆使して、現在のA君の様子や状況を数字にしたり、言葉で表してみましょう。

例：いつもの呼吸数や呼吸音、酸素飽和度  
過敏の程度、食事を見た時の反応、摂取量

### 援助方法

具体的な働きかけ、関わり、ケアを考えてみましょう。

例：食事の時には、いつも同じ場所に食事をセッティングして、「いただきます」をしたあと、本人の拒否が少なかった「アイスクリーム」を必ず一口づつ舐めるようにする。

小児看護専門看護師市原真穂PHS(787)

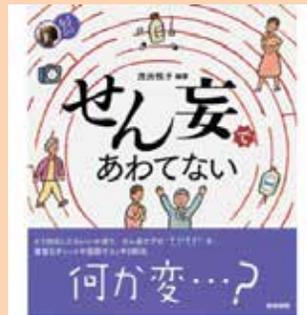
次回へ続く

## 高齢者のケアへの理解を深めよう！図書紹介

生活リズムの調整・せん妄ケア  
どちらも高齢者に重要！



疾患などで障害を抱えた高齢者が、再び生活者として生活機能を獲得できるよう、様々なケアの方法や指針が書かれています。特に、センターでは生活リズムに障害をきたす高齢者が多く、「生活リズムの調整」の項目は大変参考になります。



急性期のせん妄ケアを中心に書かれている所もありますが、せん妄の基礎的な知識からケアまで、総合的に、わかりやすくまとめられています。センターの高齢者へのせん妄ケアへも大変参考になる本です。

老人看護専門看護師 岩崎友理子(3AB棟 内線393)

高齢者ケアについて、是非ご相談下さい



脳卒中が起こり易いのはいつか？今でしょ！夏！そうこれからです。今回は(社)日本脳卒中協会の脳卒中予防十か条を紹介します。是非、入院中の患者さんやご家族への健康指導に、そしてみなさんとご家族への健康管理にお役立てください！



### 脳卒中予防十か条 (社)日本脳卒中協会

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1 手始めに 高血圧から 治しましょう | 2 糖尿病 放っておいたら 悔い残る    |
| 3 不整脈 見つかれば すぐ受診    | 4 予防には タバコを止める 意志を持って |
| 5 アルコール 控えめは薬 過ぎれば毒 | 6 高すぎる コレステロールも 見逃すな  |
| 7 お食事の 塩分・脂肪 控えめに   | 8 体力に 合った運動 続けよう      |
| 9 万病の 引き金になる 太りすぎ   | 10 脳卒中 起きたらすぐに 病院へ    |

次回は、「脳卒中克服十か条」を紹介予定です。脳卒中や外傷による高次脳機能障害の看護について、実践・研究などのご相談をお待ちしております。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 越野明子 内線292(2A)

